

第九十六回フォト句優秀作品（元年6月11日）





一本の糸に託せし命かな
(アキヤ)



古い石を緑なぐさむ
古城かな (由紀子)



托鉢を終えて旅立つ 修行僧（昌康）

寸評：

1) 赤字線地元の期待背に受けて 大月 和彦

一見してすがすがしい写真だ。万年赤字のローカル線に、若い地元採用の女性運転手が登場。爽やかな新風を巻き起こして欲しいと地元民はこぞって期待している。

2) 早春の海にタトウの幾何模様 松田 昌康

美しい湾に幾何学的にならんだ養殖いかだの影をタトウとして捉えたもの。

3) 一本の糸に託せし命かな 中村 晃也

揚羽の幼虫が蛹になる準備をしている珍しい光景だ。

4) 古い石を緑なぐさむ古城かな 新田 由紀子

古城の石垣の残骸を撮ったもの。「古い石」とか「緑なぐさむ」とか表現にやや難解な点があるが句意は理解できる。

5) 托鉢を終へて旅立つ修行僧 松田 昌康

托鉢でお馴染みのビルマ（ミャンマー）の僧侶が、鉄道駅でチケットを買っている姿を捉えた珍しいショットだ。



今月は三春さんの出題。京都の南禅寺の枯山水の庭の外人客の姿です。

寸評：

1) 瞑想がいつの間にやら居眠りに 松田 昌康

静かな心安らぐ枯山水のお庭を前に瞑想をしていて、気が付いたら居眠りをしていたという良くある体験だ。年齢が嵩むとTVをみても居眠りをすることがある。

2) ツーショット撮った私も隠れ旅 安藤 晃二

いわくありげなカップルを盗み撮りしてる自分も、実は他人にはいえない隠れ旅であったという、作者にありそうな告白である。

3) 空爆を避けた歴史に思い馳せ 大月 和彦

京都の街は空襲に遭わなかった。今幸せな気分でお庭を見ていると京都が焼けなかったのは、当時のアメリカ軍上層部の古都を保存する配慮だったのか、天候その他の条件で空襲目標の変更があったのかいろいろな思いが錯綜する。

4) 日溜りや座禅組むうち舟を漕ぎ 長尾 進一郎

瞑想と座禅と用いた言葉は違うが、句意は1)と似ている。1)と異なる点は日溜りという雰囲気を出しているところと、居眠りの代わりに舟を漕ぐという措辞が使われているところだ。 以上